



隅田川新名所物語 2012

TOPICS OF
FINE ARTS

2012.08 - 2013.01

美旬



GTS AWARD (ササクス)



GTS AWARD (そらあみ)



GTS AWARD (シタマチBase)

GTS(藝大・台東・墨田) 観光アートプロジェクト

1



GTS Art Talk Café



GTSシンポジウム



東京スカイツリー®を描く絵画展



アート環境プロジェクト（「は・は・は」1/10モデル）



記憶の森 映像祭



イノベーションプロジェクト



GTS音楽コンサート

1

GTS（藝大・台東・墨田） 観光アートプロジェクト

平成二十二年度から二十四年度までの三年間の計画でスタートした、本学と台東区、墨田区の三者共催による地域連携事業、GTS観光アートプロジェクト。

最終年度となる今年度は、「アート環境プロジェクト2012」と「隅田川 Art Bridge 2012」の二本の事業を柱に、十月から十一月にかけて、東京スカイツリーと浅草界隈を結ぶ、台東区と墨田区の隅田川を挟んだ両岸地域を舞台としてさまざまなイベントが盛大に開催された。

東京スカイツリーを望む、八カ所に設置された環境アート作品とアートベンチを巡り、「隅田川新名所物語2012」「GTS AWARD（シタマチBase、そらあみ、ササクサス）」「記憶の森映像祭」「イノベーションプロジェクト」などの展示、インスタレーション、パフォーマンスが行なわれ、地域住民の盛り上がりとともに道行く人々が足を止め、作品に触れ、アートに関心を抱く姿がいたるところで見受けられた。

そのほか、「GTS Art Talk Café」「GTSシンポジウム」区民参加型の「東京スカイツリー®を描く絵画展」、また「GTS音楽コンサート」なども両区内の企画会場で実施された。



上右：中本千晴の作品
上左：崔任廷の作品
下右：海谷慶の作品
下左：藤曲隆哉の作品

大学院美術研究科「博士審査展」 2

2

大学院美術研究科 「博士審査展」

第六回となる、大学院美術研究科「博士審査展」(平成二十四年十二月十六日～二十五日)が開催された。

「審査展」という名称が示すとおり、博士学位の修得を目指す学生たちにとって本審査展が研究活動の最終関門であるとともに、大学院在学中の集大成としての作品と研究を発表し、今後、作家・研究者として活動していくうえで、出発点となる展覧会になっている。

展示活動は学生自身が主役・主体となり、最終年次の一年を通して練り上げられている。また、展示以外にもプロフェッショナルとして求められる美術館利用の知識や、企画運営上の注意点・危機管理などもあわせて教授しており、いわば本格的に大学美術館を使用した、最高の実地訓練の場となっている。

期間中は作品出展者も含めた学生全員が、一般公開による論文発表を行っており、来観者の質問を受け討論することにより、社会に「生きた芸術」の場を提供することに挑戦していることも魅力の一つである。

これらの一連の取り組みは「国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成二十三年度に係る業務の実績に関する評価の概要」でも、「国立大学法人の個性・特色の一層の発揮」として高く評価された。



右上:「それは目に見えなくとも」で学長賞(大賞)を受賞した加藤萌さん
右下:授賞式
左2点:藝大アートプラザにおける展示風景



第七回 藝大アートプラザ大賞展 3

3

第七回 藝大アートプラザ大賞展

十一月二十八日から十二月十六日まで、藝大アートプラザで、「第七回 藝大アートプラザ大賞展」を開催した。これは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため二〇〇六年度から実施している学内アートコンペで、厳正な審査を経た入選作品を展示、販売している。七回目を迎えた今回は総勢四十名(四十九点)の作品が会場の藝大アートプラザを飾った。

今回、学長賞(大賞)を受賞したのは大学院美術研究科修士課程工芸専攻(漆芸)に在籍する加藤萌さんの作品「それは目に見えなくとも」。

多くの学生が入選し、販売の機会を得る「藝大アートプラザ大賞」によって、若い学生たちにも社会との交流の場を与えることができ、アーティストとしての自覚を促す教育的な成果も期待されている。



第3回Dコンサート

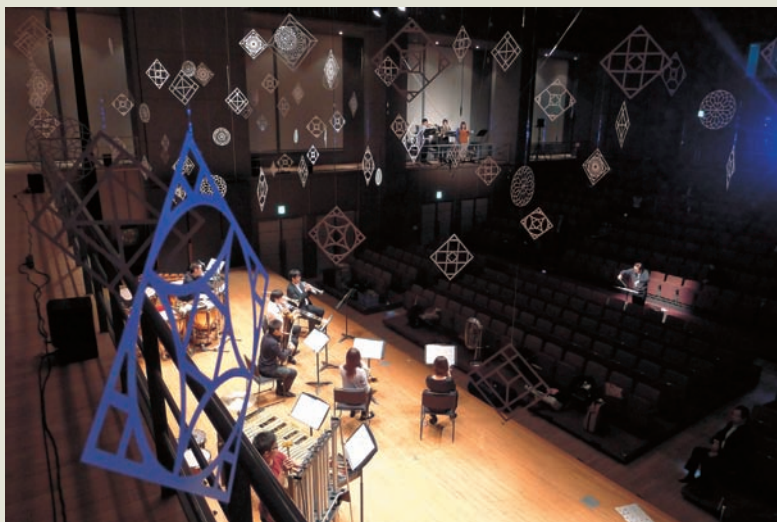
カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」にて

1

TOPICS OF
MUSIC

2012.08-2013.01

音旬



2012年度千住ミュージックフェスタ・天空コンサート

デザイン専攻の学生によって空間デザインが施された天空劇場

2

1

第三回Dコンサート

十一月十六日、本学大学院博士課程を修了したアーティストによる第三回Dコンサートが、カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」において開催された。初の学外開催であったが、会場の百三十席は満席の盛況となった。今回はピアノ、声楽、三味線音楽を専門とする三名が出演し、「交錯するアイデンティティと音楽する意志」というテーマのもと、博士論文で行なった研究成果を実演つきで発表した。アンケートでは、演奏実践から研究課題が導き出されている様子やそのアプローチの仕方など、演奏家ならではの研究の一面が垣間見られたことに高い評価が集まった。また恒例の出演者三名によるコラボレーションでは、編曲のほか、今回はじめて新作委嘱にも取り組み、いずれも好評であった。

2

2012年度千住ミュージックフェスタ・天空コンサート

『ヴェネツィア幻想サン・マルコ大聖堂の響きを求めて』壮麗なるフラスアンサンブルのタベ』

足立区からの受託研究で、毎年十一月に東京芸術センターの天空劇場と千住校地のスタジオなどを使った二日間のさまざまなコンサートがアトリエゾンセンターの主催で行なわれる。今年の天空劇場のコンサートは、十一月十七日（土）に稲川榮一教授指揮、金管、打楽器、ピ



4

藝大アーツ・スペシャル2012 障がいとアーツ ～共に生きる～

上：韓国伝統打楽器を演奏するタムティによる
洪承希《四仙舞》(2012)の世界初演
下：筑波大学附属大塚特別支援学校生徒と
藝大生の共同作品「色舞奏」



隅田川＋カーリユー・リヴァー英国公演2012

上：オーフォード教会での公演
下：本学奏楽堂での帰国公演

3

アノの学生たちによるジョヴァンニ・ガブリエリを中心としたプログラムであった。天空劇場の客席がバルコニーのような回廊で囲まれているので、サン・マルコ大聖堂のような金管アンサンブルの分割が可能であることと、今年がジョヴァンニ・ガブリエリの没後四百年であることから企画された。

ヤマハ株式会社空間音響グループの協力で、天空劇場の音響分析によって西洋の教会の響きを精密に再現し、舞台上方には、大学院美術研究科デザイン専攻の学生によって、サン・マルコ大聖堂の廊下や壁で使われているモチーフを使った空間デザインが施された特別なコンサートが実現できた。ガブリエリ以外にも、三郡の金管アンサンブルと打楽器のための「PAX TBI...」の初演、ピアノが加わったR・アディンセル作曲、稲川榮一編曲の「ワルシャワ協奏曲」などの映画音楽も演奏され、好評であった。

3

隅田川＋カーリユー・リヴァー 英国公演2012

本公演は、伝統的な観世流の舞台による能《隅田川》と、英国の現代作曲家ブリテンが、一九五六年、日本に滞在した折に《隅田川》を鑑賞して感動し、それを翻案し「教会オペラ（教会寓意劇）」として作曲した《カーリユー・リヴァー》の比較上演となっている。《カーリユー・リヴァー》という時代も国も超えたこの文化交流の実例を、英国人による演出・美術・指揮・合唱、そして日本人によるキャストと器楽奏者という日英のコラボレーションによって上演するという点でも意義深いものとなった。公演は九月七日にクライストチャーチ・スピ

タルフィールズ（ロンドン）、九月九日にオーフォード教会で開催され、特にオーフォード教会はブリテンが活動の本拠地としたオールドバラ近郊のサフォークにあり、ここは一九六四年にブリテン自身の指揮で《カーリユー・リヴァー》が初演された場所であり、初演地における《カーリユー・リヴァー》と《隅田川》の同時上演は、史上初の試みとなった。また、十月二十八日には本学奏楽堂で帰国公演も行なった。本公演は日英両国で、聴衆に深い感銘を与え、大きな喝采を浴びた。

4

藝大アーツ・スペシャル2012 障がいとアーツ ～共に生きる～

十二月一日(土)～二日(日)

日韓の障がいのある若者を中心とする演奏会、展示会、ワークショップとシンポジウムが開催された。奏楽堂でのコンサートは、知的障がいをもつ子供たちと本学学生による日本舞踊、視覚障がいの演奏家による演奏、聴覚障がい者の手話とのコラボレーション、ダウン症・自閉症・小児麻痺の韓国の伝統打楽器のアンサンブルとオーケストラの初演、ダウン症の書家による揮毫と続き、楽器の間に座った聴覚障がいの子らのオーケストラ体験で閉じられた。奏楽堂ホワイエには、美術学部の学生と特別支援学校生徒による共同作品「色舞奏」、視覚障がい者たちの写真、ダウン症の書家の書が、第一ホールにはダウン症の子供らの油彩と書が展示された。並外れた集中力を爆発させる彼女らの音楽・美術・書・舞踊・手話は、来場者に深い感動を、参加した学生らに「純粋に絵を描く喜び」「芸術への肉迫」に魂を揺さぶられる体験をもたらした。

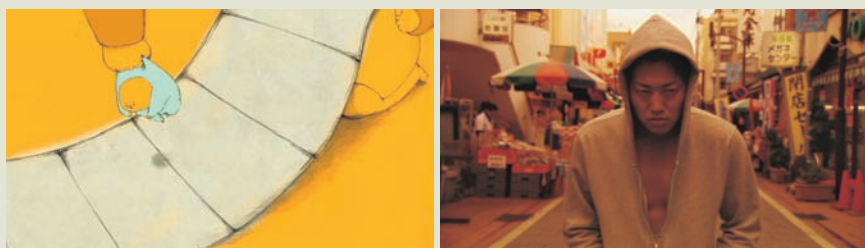


公開講座一馬車道エッジズ
「コンテンポラリーアニメーション入門」第十回～第十二回
アニメーション専攻

1

TOPICS OF
FILM AND
NEW MEDIA

2012.08-2013.01



藝大大学院映像研究科「上野校地シアター 2012」
映画専攻・アニメーション専攻

2

右:「イエローキッド」 監督:真利子哲也
左:「つつまれるコマ」 監督:田中美紀



3

コトバ身体ワークショップ
メディア映像専攻



OPEN TRADITION「ANIMATION×映像世紀」
開拓者は走り続ける
アニメーション専攻

4

映旬



5 OPEN THEATER 映画専攻

上から、
「じじいの家でご飯を食べる」監督：鶴岡慧子
「メルヒェン」監督：五十嵐耕平
「空洞」監督：樹井大地
「無知と魚」監督：一見正隆

4

OPEN TRADITION 「ANIMATION×映像世紀」 開拓者は走り続ける

◎アニメーション専攻

十二月十五日に本学横浜校地馬車道校舎において、本学OBでプロフェッショナル映像集団「白組」の代表者でもある島村達雄氏を講師として迎えて、公開講座「OPEN TRADITION」が開催された。白組スタッフによる実演や、制作にかかわった数多くの作品の中からいくつかの映像上映を交えて、貴重な体験談とともに話していただいた。五十年を超える映像界の第一線での活動を経て今も衰えないその創作意欲を堪能できた講座となった。

5

OPEN THEATER

◎映画専攻

横浜市文化観光局との共催による実習制作の上映会「OPEN THEATER 2012」が十二月二十二日、二十三日に本学横浜校地馬車道校舎において開催された。

実習作品だけでなく、学生の過去の作品の上映、横浜フィルムコミッションの方を招いてのトークイベントも行なわれた。初日は生憎の雨にもかかわらず盛況となり、百三席の会場に対して来場者数は最大九十名を上回り、二日間の合計では延べ六百五十五名となった。また、修了制作作品集DVDの販売も行われた。

3

コトバ身体ワークショップ

◎メディア映像専攻

十二月十三日、十四日、本学横浜校地新港校舎において、振付家・山下残氏を講師としてお招きし、山口情報芸術センターの技術協力のもと、メディア映像専攻の学生による「山下残 コトバ身体ワークショップ」を開催した。

体感型デバイス(Kinect)やデータベースを駆使して、身体の動きや言葉を交換し合い、参加者にメディアにおける身体性への関心を高めてもらうと企画した。当日は、横浜内外を問わず、勤め帰りの方から小学生まで幅広い年齢層に参加していた。各日四時間のプログラムで実施した。一般社団法人 横浜みなとみらい21からエリアマネジメント活動助成事業として助成を受けた本ワークショップは、学生と参加者が直接的にかかわる教育普及の場としても盛況に終わった。

2

藝大大学院映像研究科 「上野校地シアター2012」

◎映画専攻・アニメーション専攻

十一月十三日、上野校地美術学部中央棟第一講義室において、映画専攻、アニメーション専攻、それぞれの上映会を行なった。

映画専攻は第三期修了制作で全国劇場公開作品である、『イエローキッド』（監督：真利子哲也）を上映。上映終了後は、ゲストに映画監督の三木聡氏を迎え、映画専攻美術領域の磯見俊裕教授と映画美術について対談を行なった。

また、アニメーション専攻は『アニメーション専攻修了作品選』を上映し、こちらも上映後には、修了生舞台挨拶と質疑応答（司会：岡本美津子教授）を行なった。

1

公開講座「馬車道エッジズ」 「コンテンポラリー」 アニメーション入門

第十回～第十二回

◎アニメーション専攻

八月十八日の第十回講座は、カナダから、ミシエル・レミュー監督を招聘し、イラストレーターからアニメーション作家への履歴と、ユニークなアニメーション技法「ピンスクリーン」の伝承の歴史を紹介した。十月六日の第十一回講座は、ロシアからイーゴリ・コヴァリョフ監督を招聘し、個人作品と商業作品について、また十一月十一日の第十二回講座は、イギリスからアニメーション研究家クレア・キッソン氏を招聘し、「社会批評のメディアとしてのアニメーション」・チャネル4の歴史」と題して、八〇年代からのイギリスのインディペンデントアニメーションの歴史を紹介した。